

研究主題

自尊感情や自己肯定感に関する調査研究（2年次）

—各校種における授業モデルの開発を目指して—

目次

第1	研究の概要	20
第2	研究の背景とねらい	
1	研究の背景	21
2	研究のねらい	21
第3	昨年度の取組	
1	東京都の児童・生徒における自尊感情や自己肯定感の傾向の把握	21
2	自尊感情や自己肯定感を高める授業モデルの検討	22
第4	今年度のねらい	
1	調査結果の分析	22
2	各校種における検証授業	23
3	「自尊感情や自己肯定感を高めるための年間指導計画（例）」の開発	23
第5	研究の内容	
1	調査結果の分析	23
2	研究仮説	24
3	研究の方法	24
第6	検証授業	
1	小学校第4学年「特別活動（学級活動（1））」	26
2	小学校第6学年「特別の教科 道徳」	27
3	中学校第1学年「特別の教科 道徳」	28
4	中学校第2学年「英語科」	29
5	高等学校第1学年「人間と社会」	30
6	高等学校第3学年「公民科（現代社会）」	31
7	特別支援学校小学部第6学年「生活単元学習」	32
第7	「自尊感情や自己肯定感を高めるための年間指導計画（例）」の開発	
1	ねらい	33
2	作成・活用方法	33
第8	研究の成果	33
	【参考】自尊感情や自己肯定感を高めるための年間指導計画（例）	34

1 研究の成果

- 自尊感情や自己肯定感に関する調査を実施し、前回調査と比較して、東京都の児童・生徒の自尊感情や自己肯定感が高まったことを確認することができた。
- 全ての校種で複数教科等における検証授業を実施し、児童・生徒の自尊感情や自己肯定感の変容を確認することができた。
- 自尊感情や自己肯定感を高めるための授業モデルを開発し、児童・生徒の自尊感情や自己肯定感をバランスよく高めることができた。

2 研究成果の活用

- 「自尊感情や自己肯定感を高めるための年間指導計画（例）」等の開発物を活用し、研究成果の普及・啓発を図る。

第1 研究の概要

<p>【社会状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多文化共生社会の進展 ○ Society5.0 時代の到来 <p>【東京都教育ビジョン（第4次）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な方針5 豊かな心を育て、生命や人権を尊重する態度を育む教育 <p>【今日的な教育課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自尊感情や自己肯定感を高める教育の更なる充実 	<p>【児童・生徒の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和元年度「子供・若者白書」によると、「自分自身に満足している」という問いに、否定的な回答をしている日本の子供の割合は55%であった。 ○ 令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果では、「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに、小学校第6学年で23%、中学校第3学年で23.7%の子供が否定的な回答をした。
--	---

【育てたい児童・生徒像】

他者とのかかわり合いを通して、自分をかけがえのない、価値ある存在として捉え、自分のよさを肯定的に認めることができる児童・生徒

【研究主題】

自尊感情や自己肯定感に関する調査研究（2年次）
－各校種における授業モデルの開発を目指して－

【主題設定の理由（1年次）】

- 東京都教職員研修センターでは、平成20年度から平成24年度までの5年間、東京都の児童・生徒の自尊感情や自己肯定感の実態把握のために、「自尊感情や自己肯定感に関する研究」に取り組んだ。その後、同研究については、全国から研究成果の活用に関する問合せや、都内公立学校から都教委訪問モデルプランを活用した研修の要請もある。
- 各学校において、同研究の成果を生かした取組を行うことにより、児童・生徒の自尊感情は高まっていると考えられるが、児童・生徒の自尊感情や自己肯定感を高める教育の更なる充実を図るために、各校種、教科等における授業モデルを検討する。
- 平成21年度に実施した自尊感情や自己肯定感に関する調査から10年以上経過していることから、同項目による調査を行い、前回調査と比較し、児童・生徒の自尊感情や自己肯定感の現状を把握する。

【主題設定の理由（2年次）】

- 自尊感情や自己肯定感を高めるための視点等を明らかにするため、昨年度の調査結果について、各項目間の関係性や関連性に着目して分析を行う。また、分析結果を基に、先行研究を踏まえ、全ての校種で複数教科等において検証授業を行い、効果を検証する。
- 「自尊感情や自己肯定感を高めるための年間指導計画（例）」等の開発物を作成し、研究成果の普及・啓発を図る。

【研究仮説】

自尊感情を構成する各項目について、「学習内容」や「指導方法」を工夫することで、バランスよく児童・生徒の自尊感情や自己肯定感を高めることができるであろう。

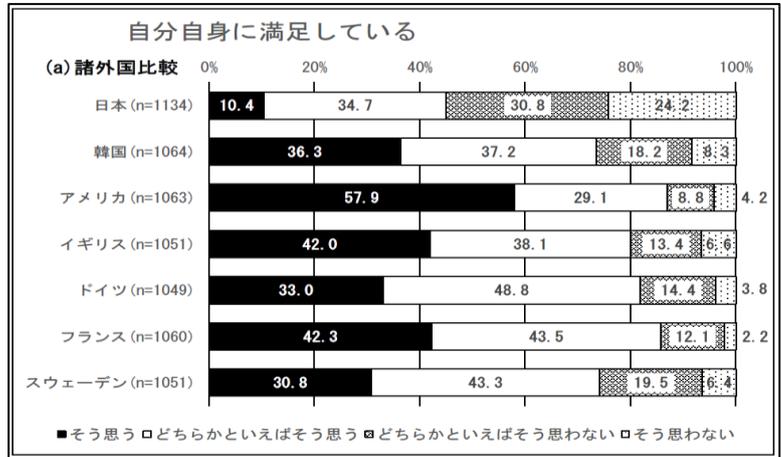
<ul style="list-style-type: none"> ○ 調査分析（4月～8月） ・ 昨年度の調査結果について 相関分析を行った。 ・ 小学校第5学年から高等学校第3学年までの全学年において、共通して相関性があると考えられる項目を抽出し、仮説を立てた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 検証授業（9月～11月） ・ 小学校：特別活動 特別の教科 道徳 ・ 中学校：特別の教科 道徳 英語科 ・ 高等学校：人間と社会 公民科（現代社会） ・ 特別支援学校：生活単元学習 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 開発研究（11月～1月） 「自尊感情や自己肯定感を高めるための年間指導計画（例）」の作成 ○ まとめ（1月～3月） ・ 研究紀要の作成 ・ リーフレットの作成
--	---	---

第2 研究の背景とねらい

1 研究の背景

グローバル化等により様々な人となつながら多文化共生社会の進展や、AI、IoT、ビッグデータ等、先端技術の社会実装による Society5.0 時代が到来しつつある中、日本の子供の自尊感情・自己肯定感、未だに低い傾向にある。

例えば、令和元年度「子供・若者白書」によると、「自分自身に満足している」という問いに、否定的な回答をしている日本の子供の割合は 55%（「どちらかといえばそう思わない」が 30.8%、「そう思わない」が 24.2%）であった。（図1）この割合は、韓国、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、スウェーデンなどの諸外国の子供と比較すると高い数値であり、依然



令和元年度「子供・若者白書」P. 4より引用

図1 「自分自身に満足している」の問いの諸外国比較

として自分に自信をもてない児童・生徒が一定数存在していることが明らかとなっている。

また、令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果では、「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに、小学校第6学年で 23%（「どちらかといえば、当てはまらない」15.5%、「当てはまらない」7.5%）、中学校第3学年で 23.7%（「どちらかといえば、当てはまらない」16.6%、「あてはまらない」7.1%）が否定的な回答をした。

2 研究のねらい

東京都教職員研修センターでは、社会で活躍する人材を育成するために、自尊感情や自己肯定感を高めていく教育を推進していくことなどが必要であると考え、平成20年度から平成24年度までの5年間、「自尊感情や自己肯定感に関する研究」に取り組んだ。

現在、自尊感情や自己肯定感については、学校経営方針（計画）における重点項目の一つとして掲げたり、校内研究のテーマとして取り上げたりしている学校がある。また、当センターが作成した研修プランや資料を活用して、研修を実施したいという都内の公立学校からの要請や、研究に活用したいという全国の学校や教育委員会等からの問合せもある。

今回、当センターでは、「子供・若者白書」や「全国学力・学習状況調査」等の調査結果を踏まえ、東京都の児童・生徒の実態を把握し、自尊感情や自己肯定感を高めるために、令和2年度から令和3年度までの2年間、調査研究に取り組むこととした。

第3 昨年度の取組

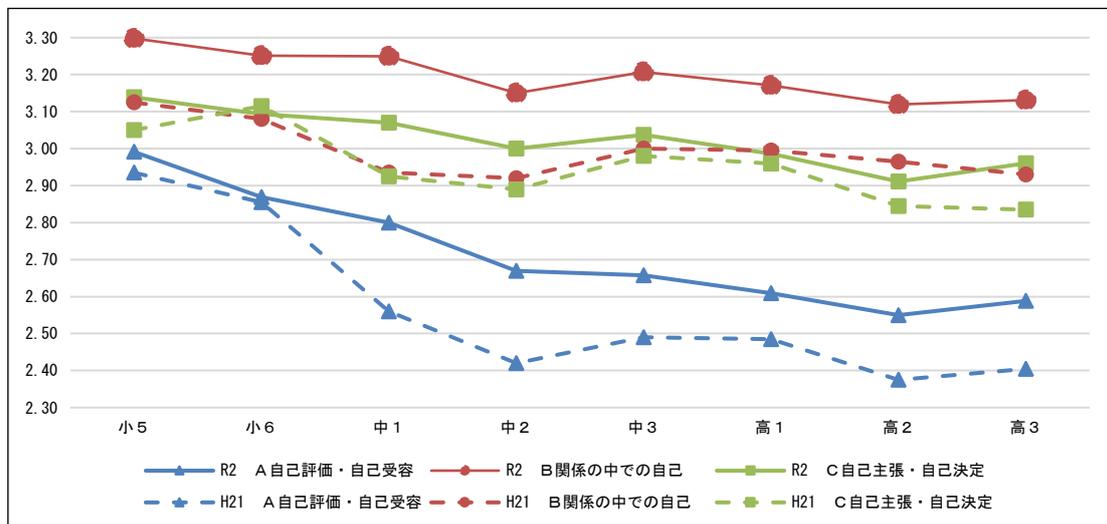
昨年度は、主に以下の2点について取り組んだ。

1 東京都の児童・生徒における自尊感情や自己肯定感の傾向の把握

平成21年度、当センターでは、自尊感情や自己肯定感に関する大規模調査を実施した。前回調査から10年以上経過していることから、昨年度、同項目による調査を実施し、東京都の児童・生徒における自尊感情や自己肯定感の傾向を把握した。

調査は、令和2年7月から9月まで、都内公立学校141校（小学校66校、中学校52校、高等学校23校）、児童・生徒12,540人（小学校4,126人、中学校5,332人、高等学校3,082人）を対象に「自尊感情測定尺度【東京都版】」を活用して実施した。

調査の結果、全ての校種・学年において、自尊感情を構成する3観点のほぼ全ての数値が高まったことが分かった。（図2）



「令和2年度 東京都教職員研修センター紀要 第20号」P.42引用

図2 学年別・観点別の調査結果（平成21年度：N=4,019人、令和2年度：N=12,540人）

2 自尊感情や自己肯定感を高める授業モデルの検討

調査結果を踏まえ、当センターの先行研究を基に「学習内容」や「指導方法」で高める視点から、各校種・各教科等における自尊感情や自己肯定感を高める授業モデルについて検討した。

各教科等では、自尊感情や自己肯定感を直接取り上げていて、関連の深い学習内容がある。この学習内容を充実させることが、児童・生徒の自尊感情や自己肯定感を高めることにつながる。また、指導方法を工夫し、子供たちが「できた」、「分かった」という実感をもったり、先生や友達に「褒めてもらった」、「認めてもらった」といった経験をしたりすることで、自尊感情や自己肯定感を高めることが期待できる。

そこで、昨年度、以下のステップで授業を計画し、検証授業を実施した。

【ステップ1】

「自尊感情測定尺度【東京都版】」の結果をレーダーチャートに表し、全体の「形」や大きさから、児童・生徒の自尊感情や自己肯定感の傾向を把握する。

【ステップ2】

ステップ1で把握した児童・生徒の自尊感情の傾向を踏まえ、「学習内容」や「指導方法」で高める視点から指導の方向性等を検討し、授業を計画する。

第4 今年度のねらい

昨年度の取組を踏まえ、今年度は、以下の3点をねらいとする。

1 調査結果の分析

自尊感情や自己肯定感を高めるための視点を明らかにするため、昨年度の調査結果について、

「自尊感情測定尺度【東京都版】」の22項目に関して、各項目間の関係性や関連性に着目し分析を行う。

2 各校種における検証授業

昨年度は、小学校「特別の教科 道徳」、中学校「数学科」、高等学校「国語総合」、特別支援学校「職業・家庭科」で検証授業を実施した。今年度は、全ての校種で複数教科等において検証授業を実施し、児童・生徒の自尊感情や自己肯定感の変容等について検証する。

3 「自尊感情や自己肯定感を高めるための年間指導計画（例）」の開発

各学校において、意図的・計画的に児童・生徒の自尊感情や自己肯定感を高めることができるように、「自尊感情や自己肯定感を高めるための年間指導計画（例）」を開発する。

第5 研究の内容

1 調査結果の分析

(1) 相関分析について

自尊感情や自己肯定感を高めるための視点を明らかにするため、「自尊感情測定尺度【東京都版】」の各項目間の関係性や関連性に着目し、ピアソンの積率相関係数を用いて、相関分析を行った。

相関分析とは、二つの要素がどの程度関係しているのかを明らかにするための分析手法である。相関係数（ r ）は常に $-1 \leq r \leq +1$ の範囲にあり、数値が+1に近づく程、強い正の相関となる。本研究では、大きな効果量の目安である $r \geq 0.5$ 以上に着目した。

具体的には、自尊感情を構成する3観点、22の質問項目を縦軸と横軸に置き、小学校第5学年から高等学校第3学年までの各学年について相関分析を行った。（表1）また、各学年の相関性があると考えられる項目を抽出した。

表1 相関分析の分析例（第5学年・一部抜粋）

観点		A 自己評価・自己受容							
項目	問1	問4	問7	問10	問13	問16	問19	問22	
A 自己評価・自己受容	問1	1							
	問4	0.627	1						
	問7	0.377	0.340	1					
	問10	0.518	0.618	0.345	1				
	問13	0.545	0.623	0.503	0.566	1			
	問16	0.471	0.547	0.274	0.590	0.508	1		
	問19	0.388	0.412	0.431	0.442	0.525	0.462	1	
	問22	0.497	0.567	0.356	0.586	0.530	0.591	0.489	1
B 関係の中の自己	問2	0.327	0.297	0.192	0.333	0.245	0.307	0.249	0.304
	問5	0.176	0.215	0.065	0.271	0.147	0.228	0.189	0.198
	問8	0.260	0.282	0.080	0.306	0.185	0.344	0.227	0.303
	問11	0.310	0.322	0.135	0.414	0.303	0.412	0.292	0.385
	問14	0.280	0.283	0.164	0.342	0.245	0.324	0.269	0.332
	問17	0.245	0.238	0.052	0.329	0.195	0.285	0.154	0.262
C 自己主張・自己決定	問20	0.375	0.432	0.202	0.492	0.362	0.517	0.385	0.497
	問3	0.303	0.312	0.169	0.293	0.226	0.381	0.269	0.334
	問6	0.373	0.451	0.231	0.469	0.385	0.526	0.360	0.453
	問9	0.410	0.409	0.251	0.434	0.368	0.465	0.343	0.444
	問12	0.267	0.318	0.140	0.330	0.274	0.385	0.254	0.352
	問15	0.267	0.285	0.143	0.289	0.240	0.429	0.275	0.370
	問18	0.186	0.199	0.080	0.218	0.129	0.261	0.164	0.254
問21	0.426	0.488	0.250	0.553	0.439	0.571	0.384	0.525	

（小数点第4位を四捨五入）

(2) 相関性があると考えられる共通項目

相関分析の結果、自尊感情測定尺度【東京都版】の22項目のうち、以下の4項目について、小学校第5学年から高等学校第3学年まで、共通して相関性があると考えられることが分かった。（図3）

- ・「A 自己評価・自己受容」のうち、問16「自分にはよいところがある」
- ・「B 関係の中での自己」のうち、問20「私には自分のことを必要としてくれる人がいる」
- ・「C 自己主張・自己決定」のうち、問6「自分の中には様々な可能性がある」、問21「私は自分の個性を大事にしたい」

このことを踏まえ、今年度は、研究の一つの視点として、相関性があると考えられる4項目に着目し、4項目ごとに「学習内容」や「指導方法」を工夫することで、児童・生徒の自尊感情や自己肯定感を高めることができるのではないかと考え、以下の研究仮説を立てた。

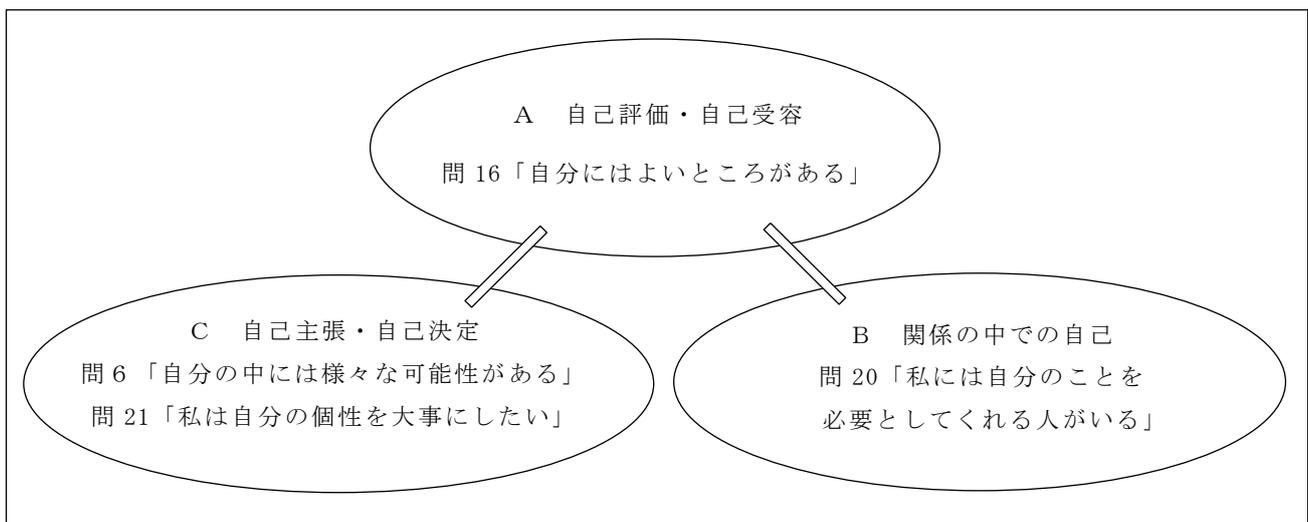


図3 相関性があると考えられる4項目

※「自尊感情測定尺度【東京都版】」の22項目については、以下のURL参照。
(<https://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/09seika/reports/bulletin/h23.html>)

2 研究仮説

自尊感情を構成する各項目について、「学習内容」や「指導方法」を工夫することで、バランスよく児童・生徒の自尊感情や自己肯定感を高めることができるであろう。

3 研究の方法

研究仮説を検証するための手だてとして、先行研究を基に、相関性があると考えられる4項目に焦点化し、効果的な「学習内容」や「指導方法」例について検討・整理した。（表2）

例えば、「A 自己評価・自己受容」の観点、問16「自分にはよいところがある」を高めるための「学習内容」と「指導方法」には、以下の方法が考えられる。

まず、「学習内容」としては、これまでの生活を振り返り、自分の成長や変化について考える「自己の成長を振り返る学習」がある。自分自身で考えたり、友達に教えてもらったりして気付くことができた自分の成長や変化を実感することで、児童・生徒の自尊感情や自己肯定感を高めることにつながる。

次に、「指導方法」としては、「自分のよさや個性について考える場面を設定する」という

方法がある。授業の導入でワークシートを配布し、自分のよさや個性に関する考えを記入するように伝え、意見を発表しやすくしたり、机間指導等において価値付けながら、子供たちが自分のよさや個性について再認識できるようにしたりすることで、児童・生徒の自尊感情や自己肯定感を高めることが期待できる。

このような取組を、他の相関性があると考えられる観点でも行うことで、バランスよく児童・生徒の自尊感情や自己肯定感を高めることができると考えた。

表2 自尊感情や自己肯定感を高めるための「学習内容」や「指導方法」例

観点・項目	学習内容	指導方法
A 自己評価・自己受容 問16「自分にはよいところがある」	・ 自己の成長を振り返る学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のよさや個性について考える場面を設定する。 ・ 一人で取り組むことができるように、教材・教具を工夫する。 ・ 机間指導で児童・生徒の記述を把握し、自信をもって発表できるようにする。 ・ 一人でできるようになった活動については、本人に気付かせて、できたことを褒める。 ・ 「そのように考えたのですね。」など、一度児童・生徒の考えや意見を受け止めた上で、正答を提示する。
B 関係の中での自己 問20「私には自分のことを必要としてくれる人がいる」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の個性を発見する学習 ・ 生命の尊さを考える学習 ・ 友達の尊さについて考える学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合い活動では、児童・生徒の考えのよいところを褒め、学級全体に広げようとする。 ・ 相手のよさに着目し、互いの考え方や努力したことを肯定的に認め合うとともに、認め合うことのよさを感じられるようにする。 ・ 友達の存在が学校生活を充実させているとともに、一人一人の活動は周りの人の助けがあって成り立っていることに気付けるようにする。 ・ 本時の活動を振り返り、一人一人が役割を果たすことや学級の全員が言葉を掛け合い協力することの重要性を実感できるようにする。 ・ 友達と相談し、協力することの大切さを伝える。
C 自己主張・自己決定 問6「自分の中には様々な可能性がある」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的に進路を考える学習 ・ 成就感や連帯感を味わえる学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のよさや個性について考えたり、自らの職業適性を理解したりすることで、将来に向けて自分をよりよく生かしていく方法を考えられるようにする。 ・ 他者との比較ではなく、自分なりの目標の達成を目指すように支援する。 ・ リーダーになる意欲を尊重し、責任を果たせるよう支援する。 ・ 自分の意見や考えを仲間と交流できる場面を設定する。 ・ 自分が学習したことが将来につながることを想起できる場面を設定する。
問21「私は自分の個性を大事にしたい」	・ 他者と協力することの大切さを学ぶ学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級の友達にインタビューを行い、友達から見た自分について知り、客観的に自分の個性を捉えられるようにする。 ・ 教師や友達からの声掛けなどにより、自分の長所に気づき、自分のよさに着目できるようにする。 ・ 自分の判断や自分で決定することに自信をもち、好きなことや得意なことを見付けて、打ち込めるようする。 ・ 同じ事柄でも多様な考え方や、その事柄について受容できるような場面を設定する。

第6 検証授業

仮説を検証するために、令和3年9月から11月までに、以下の校種・教科等で検証授業を実施した。また、学習を通じた児童・生徒の変容については、数値、行動、記述等から確認した。

・ 小学校第4学年	特別活動「運動会おつかれさま会をしよう」
・ 小学校第6学年	特別の教科 道徳「自分が目指すところまで」
・ 中学校第1学年	特別の教科 道徳「自分を大切にしよう」
・ 中学校第3学年	英語科「My Future Job」
・ 高等学校第1学年	人間と社会「働くことの意義」
・ 高等学校第3学年	公民科「日本の政治機構と政治参加」
・ 特別支援学校小学部第6学年	生活単元学習「SDGsで世界を変えるお手伝いをしよう」

小学校第4学年 特別活動〔学級活動（1）〕

学習A

指導C

1 議題 「運動会おつかれさま会をしよう」（ア 学校や学級における生活上の諸問題の解決）

2 自尊感情や自己肯定感を高めるための視点

(1) 「学習内容」で高めるための視点

本活動は、自分の考えや思いをもって話し合いに臨み、学級会の中で自己の役割を果たしたり、学級のために意見を発表したり調整したりすることを通して、自他のよさを実感できる活動である。特に「A 自己評価・自己受容」を重点とし、自分の考えを学級会で発表したり、振り返りでは話し合いのめあてに対して、自分や友達のがよかったところを振り返ったりすることを通して、「自分にはよいところがある」と感じられるようにする。

(2) 「指導方法」で高めるための視点

学級会に臨むに当たって、児童一人一人が話し合いのめあてに対する自分の目標をもち、議題に対する自分の考えや思いを「学級会カード」に記入して自分の意見を言えるようにすることで、相関性があると考えられる「C 自己主張・自己決定」の「私は自分の個性を大切にしたい」という気持ちを高める。

3 活動計画例

学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準 ■自尊感情や自己肯定感を高めるための手だて
1 はじめの言葉 2 司会グループの紹介 3 議題の確認 4 提案理由の確認 5 話し合いのめあての確認 6 決まっていることの確認 7 話し合い ・どのような工夫をするか	・提案理由…「運動会でみんなの仲が深まってきた。運動会おつかれさま会でみんなのことを知ることができるような工夫をして一人一人の仲をもっと深めたいから。」 ・めあて…みんなが仲良くなれる工夫を決める。みんなが納得して決める。 ○児童の活動の様子（発言、つぶやき、行動）を記録し、終末の助言で取り上げる。 ※取り上げる内容 ・前回から成長が見られた内容 ・司会グループの工夫、努力 ・友達、学級全体のことを考えた言動 ・話し合いをまとめるような建設的な発言 ・議題、提案理由、めあてに戻った発言 ・自分のめあてや前回の振り返りを生かした発言 ・次への成長のために気付かせたいこと ・実践、生活への意欲付け ☆今までの活動経験を踏まえながら、自他のよさが生きるためにどのような工夫がよいかを考えたり、発言したりしている。 ☆多くの工夫の中から、多様な意見のよさを生かしながら話し合いを進めている。
8 決まったことの発表 9 振り返り	■学級の話し合いのめあてに対して、自分や友達のがよかったところを振り返るよう助言をする。 ■自己評価が高まるように具体的な場面を捉えて褒める。 ○意見の発表や調整など、具体的な場面を捉えて、具体的な事実を挙げて価値付けるようにする。
10 先生の話	■本時の児童の言動の中から、具体的な事実や名前を挙げて褒める。 ○次回に向けた本時の課題について気付くことができるように、問い掛けて助言をする。
11 おわりの言葉	○これからの活動への意欲付けをする。（「※取り上げる内容」の項目より）

4 学習を通じた児童の変容

検証授業後、ある児童は、「A 自己評価・自己受容」の数値が2.50から3.38、「C 自己主張・自己決定」の数値が2.71から3.57に上昇した。また、相関性があると考えられる「B 関係の中での自己」の数値も3.00から4.00に上昇した。（最小値1、最大値4）

普段は発言に消極的な児童が、本学習では、「一人一人の仲を深めるために『頑張ろう』の声を掛けたほうがよいと思います。」と、自分から挙手をし、発言する姿が見られた。

小学校第6学年 特別の教科 道徳

学習 C

指導 B

1 主題名 「自分が目指すところまで」（A 希望と勇気、努力と強い意志）

2 自尊感情や自己肯定感を高めるための視点

(1) 「学習内容」で高めるための視点

ピアニストの辻井伸行氏とその恩師の川上昌裕氏とのノンフィクションストーリーを教材に、辻井氏の思いや努力の日々を想像し、夢や目標をもって生きることの大切さや必要性を考える学習である。夢の実現や目標の達成のための努力や工夫について振り返ったり考えたりすることを通して、「C 自己主張・自己決定」の「自分の中には様々な可能性がある」ことに気付くことができるようにする。

(2) 「指導方法」で高めるための視点

グループ交流を設定し、友達に助言をしたり友達の助言を受け止めたりするなどの立場を経験することを通して、「B 関係の中での自己」の「私には自分のことを必要としてくれる人がいる」という気持ちを高める。

3 学習指導過程例

	学習活動	○指導上の留意点 ☆評価 ■自尊感情や自己肯定感を高めるための手だて
導入	1 自分の夢や目標を考える。 2 本時の主題名を知る。	○将来の夢だけでなく、今後の行事に向けての目標や卒業するときのなりたい自分など、思考に幅をもたせてよいことを伝える。 ○夢や目標をなかなか決められない児童へは、よりよく生きるためのヒントをつかめればよいことを伝える。
展開	3 教材「二人の夢がかなった！」（東京都教育委員会『心たくましく』P97）を読んで、辻井さんの気持ちを考える。 ・「ここまできたのにあきらめるわけにはいかないと思いました。～」 ・「200本以上ある『ふ読みテープ』は、今でもぼくの大切な宝物です。」 4 グループになり、自分の夢や目標、努力したいことなどを記録しながら交流する。 5 現在の取組やこれからの努力などに触れながら、自分の夢や目標を発表する。	○辻井さんと川上先生の関係性を全体で確認する。 ○辻井さんの言葉から、夢や目標を実現するためにはどんなことが必要なのかを問い掛ける。 ○なぜ宝物であるのかを問い掛ける。 ■夢や目標に向けて今自分が努力していること（しようとしていること）に目を向けられるようにする。 ○机間指導で児童の発言や記録の様子を見て、各児童に応じた努力の方法を認める声掛けをする。自分や友達のよさに気付いて伝える機会になるよう、交流を促す声掛けをする。 ■他者との比較ではなく、自分なりの目標の達成を目指せるようにする。 ○日記の内容や日々の努力している様子を伝える。 ■発表を聞いた友達が思ったことも発表してもらい、教師のみならず友達からの評価も得られるようにし、互いの自信につなげる。 ☆自分の経験を想起して、夢や目標に向けて努力することについて考えている。
終末	6 アラン『幸福論』の一節（『心たくましく』P96）を読み、まとめる。	○様々な場面での努力や課題に向き合う姿勢が大切であることを伝え、これからの生活における具体的な場面の例示や教師の説話などで意欲をもたせる。

4 学習を通じた児童の変容

検証授業後、ある児童は、「C 自己主張・自己決定」の数値が1.43から2.71、「B 関係の中での自己」の数値が2.29から3.00に上昇した。また、相関性があると考えられる「A 自己評価・自己受容」の数値も1.50から2.38に上昇した。（最小値1、最大値4）

本児童は、グループ交流で、初めは他の児童の発言に影響されていたが、最終的に「夢は外国旅行です。そのために勉強したいです。」と、自分で考えたことを発表することができた。

中学校第1学年 特別の教科 道徳

学習 A

指導 B

1 主題名 「自分を大切にしよう」（D 生命の尊さ）

2 自尊感情や自己肯定感を高めるための視点

(1) 「学習内容」で高めるための視点

本主題は、「A 自己評価・自己受容」に関係し、「自分にはよいところがある」ことに気付き、長所や短所も含めて、自分自身の存在（いのち）の大切さについて考える学習である。今までの自分を振り返ったり、自分の中にある「ひかり」（長所など）について考えたりすることを通して、ありのままの自分を大切にしていこうとする態度を育て、「自分にはよいところがある」という気持ちを高める。

(2) 「指導方法」で高めるための視点

ペアやグループで話し合う場面を意図的に設定し、互いの考えや意見を認め合い、自分や友達のよさを理解する中で、相関性があると考えられる「B 関係の中での自己」の「私には自分のことを必要としてくれる人がいる」という気持ちを高める。

3 学習指導過程例

	学習活動	○指導上の留意点 ☆評価 ■自尊感情や自己肯定感を高めるための手だて
導入	1 今までの自分を振り返る。	○一人一人の考えや意見等を丁寧に聞き取る。
展開	2 教材の範読を聞く。	○一人一人に語り掛けるように朗読する。
	3 ペアになり、教材を読み合う。	○精読したい場合は、一人で読んでもよいことを伝える。 ○プリントを配布する。
	4 自分の中にある「ひかり」について考える。	■自分のよさや頑張っていることに、気付くことができるようにする。 ○机間指導において、生徒が書いた文章のよさを具体的に示して、褒める。 ○グループの代表者が発表するように伝える。
	5 グループで書いた言葉を発表し合い、友達が発表した中で、心に残った言葉をメモする。	
	6 中学1年生の「あなた」にとって、「いのち」を形で表すと、どのような形になるかを描き、その理由を考える。	■生徒が描いた全ての「いのち」の形を肯定的に受け入れる。 ■自分のよさや個性を認識できるようにする。 ○机間指導において、生徒が描いた形やイラストのよさを具体的に伝えて、褒める。
	7 グループで互いの考えを伝え合う。	■机間指導において、互いの考えや意見を肯定的に認め合うことができるように声掛けする。
	8 友達の発表を聞いて、思ったことや気付いたことを発表する。	○自分の「いのち」をどのような形にしていきたいか、そう考える理由や更に輝かせるために大切にしていきたいことを書くように伝える。
	9 自分の「いのち」をもっと輝かせるために大切にしていきたいことを考え、発表する。	☆自分の「いのち」をもっと輝かせるために大切にしていきたいことについて考えている。
	終末	10 本時のまとめをする。

4 学習を通じた生徒の変容

検証授業後、ある生徒は、「A 自己評価・自己受容」の数値が 2.13 から 2.63、「B 関係の中での自己」の数値が 2.86 から 3.43 に上昇した。また、相関性があると考えられる「C 自己主張・自己決定」の数値も 2.86 から 3.14 に上昇した。（最小値 1、最大値 4）

生徒のワークシートには、「自分の長所・短所のどちらも受け入れ、自信をもって生きる」、「自分の命を輝かせるには、自分のことを理解し、好きなところをもっと伸ばしていくことが大切であると思った」等の記述が見られた。

中学校第2学年 英語科

学習C

指導A

1 単元名 「My Future Job」

2 自尊感情や自己肯定感を高めるための視点

(1) 「学習内容」で高めるための視点

本単元は、「C 自己主張・自己決定」に関係し、「自分の中には様々な可能性がある」ことに気付いたり、考えたりするなど、主体的に進路を考える学習である。自分の将来や夢のためにすべきことややりたいことなどを考える活動を通して、生徒に具体的な将来像をもたせ、「自分の中には様々な可能性がある」という気持ちを高める。

(2) 「指導方法」で高めるための視点

机間指導で生徒の記述を把握し、具体的に認めながら、自信をもって発表できるよう支援する。また、電子黒板を活用して生徒の考えを学級全体で共有して認めたり、ワークシート等を活用して自己評価をしたりすることで、相関性があると考えられる「A 自己評価・自己受容」の「自分にはよいところがある」という気持ちを高める。

3 学習活動の展開例

	学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準 ■自尊感情や自己肯定感を高めるための手だて
導入	1 Warm-up ・既習事項について、リスニング問題を解いて確認する。	○本時の学習内容について説明し、見直しをもてるようにする。
展開	2 Listen and speak ・Key Sentence を音読し、意味を確認する。 ・不定詞 (It is …+動詞の原形) を使い、身近なことについてペアで簡単なやりとりをする。 ・不定詞 (It is …+動詞の原形) を使い、身近なことについて文章を書く。	○教師の発問から生徒同士のQ & Aに発展させ、生徒の発話量を増やす。 ■ペアで確認させた後、全体で確認する。 ○電子黒板に生徒が書いた英文を表示し、生徒の理解を促す。 ○英問英答でのやり取りが難しい場合は、補助的に日本語を使用する。 ■自分の判断や行動に自信をもつことができるようにする。 ○机間指導において、生徒が書いた文章について、褒めて認める。
	3 Listen and read ・新出単語の意味を確認しながら音読する。	
	4 Read the text aloud ・教師の範読後、一文ずつ音読する。 ・本文の内容について簡単な質問に英語で答える。 ・本文のパラグラフに関する質問について、自分の考えを英語又は日本語でまとめる。 ・自分の考えを全体で発表する。	○全体で発音するだけでなく個別にも発音させ、単語が正しく音声化できているか確認する。 ■キーセンテンスは、電子黒板に提示したり、板書したりすることで、教師だけでなく、友達からの評価も得られるようにする。 ■友達の発言に対して肯定的なコメントをするように指示し、互いに認め合えるようにする。 ☆不定詞（形容詞的用法）を用いた文の形、意味、用法を理解している。
	5 Consolidation ・友達の発表について質問する。	
終末	6 Greeting ・本時のめあてを振り返る。 ・次時の内容を確認する。	○次時の学習内容について伝える。 ■本時で考えたこと、感じたことをワークシートに記入させ、達成感を味わえるようにする。

4 学習を通じた生徒の変容

検証授業後、ある生徒は、「C 自己主張・自己決定」の数値が 2.86 から 3.71、「A 自己主張・自己決定」の数値が 1.88 から 2.13 に上昇した。また、相関性があると考えられる「B 関係の中の自己」の数値も 3.14 から 3.43 に上昇した。（最小値 1、最大値 4）

自己の将来像と結び付け、英語を学ぶ必要性を考えた生徒は、「What can people do with languages? (人は言語で何が出来るか?)」という問いに、「You can communicate with people from overseas. (海外の方とコミュニケーションが取れます。)」と自信をもって回答できた。

高等学校第1学年 人間と社会

学習C

指導A

1 単元名 「働くことの意義」

2 自尊感情や自己肯定感を高めるための視点

(1) 「学習内容」で高めるための視点

本単元は、「C 自己主張・自己決定」に関係し、外部講師による講演や職業レディネステストの結果等を基に、「自分の中には様々な可能性がある」ことに気付き、主体的に自己の職業適性や自らの進路について考える学習である。自分の将来のためにすべきことややりたいことなどを考える活動を通して、生徒が具体的な将来像や職業観をもち、「自分の中には様々な可能性がある」という気持ちを高める。

(2) 「指導方法」で高めるための視点

職業レディネステスト等の教材を活用して自己の職業適性や自らの進路について考える活動を設定したり、生徒一人一人の自尊感情の傾向に応じて、教師の声掛けを工夫したりすることで、相関性があると考えられる「A 自己主張・自己決定」の「自分にはよいところがある」という気持ちを高める。

3 学習活動の展開例

	学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準 ■自尊感情や自己肯定感を高めるための手だて
導入	1 本時の学習内容について確認する。	○本時の学習内容について説明し、見通しをもてるようにする。
展開	2 「職業レディネステストの結果」及び「職業レディネステスト 職業一覧表」を配布し、様々な仕事や職業の内容について確認する。	○職業レディネステストに関わる資料を基に、様々な仕事や職業の内容について説明する。
	3 「職業レディネステスト WORK 3」を配布し、各自でワークに取り組み、「My 職業リスト」を記入する。	○「職業レディネステスト WORK 3」や「My 職業リスト」の記入方法等について説明する。 ☆自らの希望する職業と自分の強みや興味・関心等を関連付けながら、自分のキャリアプランについて考えている。
	4 職業レディネステストに関わる資料を基に、自分が自信のもてることや興味・関心のあること等を各自で付箋紙に書き出し、整理する。	■生徒が、自分のよさや適性等に気付くことができるように、机間指導において声掛け等を行う。 ■自分のよさや個性を認識する場面や経験を増やし、ありのままの自分を受け入れるようにする。 ○机間指導において、生徒が分類した内容や記述のよい点等を具体的に捉えて褒める。
	5 付箋紙に書き出したことと職業レディネステストに関する資料を比較しながら、職業適性やキャリアプランについてグループで話し合う。	■「自分の中には様々な可能性がある」という気持ちを高められるよう、机間指導において声掛け等を行う。 ☆グループ協議等を通じて、自分の強みについて主体的に考え、理解を深めようとしている。
終末	6 本時について振り返る。	○本時の感想等をプリントに記入するよう説明する。

4 学習を通じた生徒の変容

検証授業後、ある生徒は、「C 自己主張・自己決定」の数値が 2.43 から 2.86、「A 自己主張・自己決定」の数値が 2.25 から 2.63 に上昇した。また、相関性があると考えられる「B 関係の中の自己」の数値も 3.00 から 3.14 に上昇した。（最小値 1、最大値 4）

生徒の振り返りシートには、「自分の職業選択について明確になった」、「将来考えていた職業に新たな選択肢が生まれたのでよい機会になった」、「将来に対して、あらゆる考え方や可能性があることを実感した」といった、主体的に自己の職業適性や進路を考える記述が見られた。

高等学校第3学年 公民科（現代社会）

学習C

指導B

1 単元名 「日本の政治機構と政治参加」

2 自尊感情や自己肯定感を高めるための視点

(1) 「学習内容」で高めるための視点

本単元は、「C 自己主張・自己決定」に関係し、主権者として、自分たちに何ができるかを考える学習である。国民主権や選挙制度等について、多面的・多角的に考えることを通して、日本の将来を担う一員であることに気付き、「自分の中には様々な可能性がある」という気持ちを高める。

(2) 「指導方法」で高めるための視点

ペアやグループワークの場を意図的に設定し、互いの考えや意見を認め合ったり、自分や仲間のよさを理解したりする中で、「B 関係の中での自己」の「私には自分のことを必要としてくれる人がいる」という気持ちを高める。

3 学習活動の展開例

	学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準 ■自尊感情や自己肯定感を高めるための手だて
導入	1 本時の学習内容について確認する。	○本時の学習活動について、教科書や資料等を活用して説明し、見直しをもてるようにする。
展開	2 国民の政治参加、日本の選挙制度とその課題に関する事項について確認する。	○プリントを配布し、関連事項等について記入できるようにする。 ☆資料を活用して、国民主権や選挙制度等の長所や課題を読み取っている。 ☆国民主権や選挙制度等に関して、自分の意見や考えを記述している。
	3 「内容まとめシート」に自分の考えや意見を記入する。	○ワークシートを配布し、自分の意見や考えを記入できるようにする。
	4 グループで話し合う。	■選挙について考えることで、有権者としての意識をもち、今回の学習が将来につながることを想起できるようにする。 ■自分のよさや個性を認識する場面や経験を増やし、ありのままの自分を受け入れるようにする。 ○机間指導において、生徒が書いた文章のよい点について、具体的に褒めて認める。 ☆主権者として、自分たちに何ができるかについて意欲的に考えようとしている。 ☆政治機構や政治参加の諸課題について改善策を考え、話し合おうとしている。
	5 各グループの代表者が話し合った内容を発表し、全体で共有する。	■生徒一人一人の意見や考えを受け止め、全体に広める。
終末	6 本時の学習活動について振り返る。	○「内容まとめシート」の振り返りの欄を記入するように伝える。
	7 次回の学習活動について確認する。	

4 学習を通じた生徒の変容

検証授業後、ある生徒は、「B 関係の中での自己」の数値が 2.43 から 2.86、「C 自己主張・自己決定」の数値が 3.00 から 3.14 に上昇した。また、相関性があると考えられる「A 自己評価・自己受容」の数値も 2.63 から 2.88 に上昇した。（最小値 1、最大値 4）

生徒のワークシートには、「国民の代表者である議員を選挙で選ぶことは、自分自身のこれからの未来のために大切である」といった、将来の政治参加の在り方について様々な可能性があることを考える記述が見られた。

特別支援学校小学部第6学年 生活単元学習

学習B

指導A

1 単元名 「SDGsで世界を変えるお手伝いをしよう」

2 自尊感情や自己肯定感を高めるための視点

(1) 「学習内容」で高めるための視点

本単元は、身近なエネルギー、環境問題、食料・水資源問題などを通して、SDGsにつながる行動について考える学習である。社会や地球環境のために「自分にもできることがある」という自覚を養うことで、「B 関係の中での自己」の「私には自分のことを必要としてくれる人がいる」と感じられるようにする学習である。

(2) 「指導方法」で高めるための視点

SDGsにつながる児童の行動を日常的に記録して学習の中で紹介したり、児童がSDGsにつながる行動について考えた理由や家庭での取組などを聞き出し、具体的に価値付けたりすることで、相関性があると考えられる「A 自己評価・自己受容」の「自分にはよいところがある」と感じたり気付いたりできるようにする。

3 学習活動の展開例

	学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準 ■自尊感情や自己肯定感を高めるための手だて
導入	1 本時の学習内容を知る。 ・身近なごみ問題について学習することに気付く。 ・日常の児童の様子を写真や動画で見る。 ・本時の学習内容がSDGsの目標の何番に当てはまるかを知る。	○身近な問題を提示し、課題意識をもてるようにする。 ○ごみ問題や自分たちができることを考えるきっかけになるよう、事前にごみ問題に関わる児童の様子を写真や動画で撮影しておき、提示する。 ○主として、「⑩つくる責任つかう責任」に関連することを提示する。
展開	2 物を無駄にしない活動について知る。 ・ごみを分別することでリサイクルできるようになることを知る。 3 ごみの分別を実践する。	○分別することが大切であることを押さえる。 ○分別したごみがどのようなものになるかを紹介する。 ■児童の発言や理解している様子を適宜取り上げ、学級全体で共有したり価値付けたりする。 ☆SDGsやごみ問題について分かっている。 ○実物を用意することで児童が興味をもち、実感をもてるようにする。 ○ごみを正しく分別できるよう、リサイクルマークを手掛かりとして提示する。 ■児童の実践を取り上げ、価値付けたことを学級全体で共有する。 ■一人で活動に取り組めることを増やす。 ○友達の実践に注目できるように事前に声を掛け、見通しをもち、自信をもって一人でできたことを称賛する。 ☆ごみを正しく分別することで、人や環境のために活動するよさを感じている。
	4 自分ができそうなことややってみたいことを発表する。	■児童の発表を価値付けて、学級全体で共有する。 ☆物を無駄にしないことや、ごみを減らすために自分たちができることなどを考えている。
終末	5 本時の学習を振り返る。 ・教師の話聞く。	○SDGsやごみ問題に関して、行動することで感謝されたり、地球の環境に役立ったりすることを伝える。

4 学習を通じた児童の変容

本単元では、児童による自己評価が難しいため、「他者評価シート」（平成24年3月 東京都教育委員会）を用いて、教師が児童の自尊感情の傾向を把握した。検証授業後、ある児童は、「1 人への働き掛け」の数値が3.50から4.00、「3 友達との関係」の数値が2.00から3.33、「5 意欲」の数値が2.75から4.00など、全ての観点の数値が上昇した。（最小値1、最大値4）

ある児童は、授業終了後、日常生活に関わる学習場面で「SDGsを頑張らなくちゃね」といった主体的な発言が見られた。また、本学習を経て、家庭において自分でごみ捨てをするようになった。

第7 「自尊感情や自己肯定感を高めるための年間指導計画（例）」の開発

1 ねらい

検証授業後、授業分析を行い、授業者から聞き取りを実施した。その結果、自尊感情や自己肯定感を高めるためには、単一の教科等のみならず、複数の教科等を関連付けて取り組むことが効果的であると考えた。そこで、先行研究を踏まえ、関連する「学習内容」を含む教科等をつないだり、「指導方法」の工夫についてまとめたりしながら、「自尊感情や自己肯定感を高めるための年間指導計画（例）」（次ページ、【参考】参照）を開発した。この年間指導計画（例）を参考にしながら、日頃の教科等の学習内容や指導方法を関連させることで、意図的・計画的に自尊感情や自己肯定感を高めることが期待できる。

2 作成・活用方法

「自尊感情や自己肯定感を高めるための年間指導計画」の作成方法は、以下のとおりである。

- 各教科等の目標や内容を踏まえた上で、「学習内容」や「指導方法」の視点から、自尊感情や自己肯定感を高める手だて等について検討する。
- 各教科等の単元相互の関連を結び付けながら、教科等の関連性や系統性を教職員間で共通認識する。
- 年間指導計画に沿って、各教科等の単元や題材目標、内容等に基づき、計画的に授業を行う。

例えば、検証授業を実施した小学校の特別活動「運動会おつかれさま会をしよう」（p26）は、特別の教科 道徳「大きな絵はがき」（内容項目「友情、信頼」）と関連させることで、より効果的に自尊感情や自己肯定感を高めることにつながる。

この年間指導計画（例）を参考に、「学習内容」で高める視点や「指導方法」で高める視点を踏まえ、各学校で特色ある年間指導計画を作成し、活用していくことが重要である。

第8 研究の成果

2年間の研究の成果は、主に以下の3点である。

第一に、自尊感情・自己肯定感に関する調査を実施したことである。東京都内公立学校 141校、児童・生徒 12,540人を対象に調査を実施し、平成21年度に実施した前回調査と比較して、自尊感情や自己肯定感が高まったことを明らかにすることができた。また、相関性があると考えられる項目について分析・検証を行うことができた。

第二に、全ての校種で複数教科等において検証授業を実施したことである。研究協力校4校（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）において、検証授業を実施し、児童・生徒の自尊感情や自己肯定感の変容を確認することができた。

第三に、自尊感情や自己肯定感を高めるための授業モデルを開発したことである。相関性があると考えられる4項目を踏まえ、関連する「学習内容」や「指導方法」を工夫して授業を行うことで、児童・生徒の自尊感情や自己肯定感をバランスよく高めることができた。

今後、東京都の児童・生徒の自尊感情や自己肯定感を高める取組が充実するよう、研究成果の普及・啓発を図っていく。

【参考】 自尊感情や自己肯定感を高めるための年間指導計画（例）〔小学校第4学年〕

【年間指導計画作成のための留意点】

- 各教科等の目標や内容を踏まえた上で、「学習内容」や「指導方法」の観点から、自尊感情や自己肯定感を高める手立て等を検討する。
 - 各教科等の単元相互の関連性を結び付けながら、教科等の関連性や系統性を教職員間で共通認識する。
 - 年間指導計画に沿って、各教科等の単元や題材目標、内容等に基づき、計画的に授業を行う。
- ※は、「 」単元相互の関連性を示す。

教科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
学級経営	<ul style="list-style-type: none"> ●学級づくり ●日常の生活や学習への適応及び健康安全 ●一人一人のキャリア形成と自己実現 												
各教科	国語「こんなところがおなじだね」 ●友達の話し、自分の思いを伝えたりする。	国語「お礼の気持ちを伝えよう」 ●相手や書の内容を選んで伝える。	社会「ごみはどこと」 ●ごみの処理について、自分たちができることを話し合い、学習問題について自分の考えをまとめて考える。	算数「考える力をのばそうーちがいに注目してー」 ●問題の構造について、分配や移動を伴う二つの数量の差に着目して、割合に表して考える。	社会「水はどこから」 ●水の供給や使われ方について、自分たちができることを話し合い、学習問題について自分の考えをまとめて考える。	音楽「歌声のひびきを感じ取ろう」 ●歌詞の表す様子を思い浮かべながら、のびやかな声で歌う。	理科「あたたく探した動物を育てよう」 ●身近な動物を育てたり、しなから、環境等との関わりを調べる。	社会「健康なくらしとまじり」 ●人々の健康と生活環境を文脈から、関連付けながら調べる。	国語「水はどのくらい」 ●水の量や状態を調べる。	国語「感動を言葉に」 ●これまで書いた詩を振り返り、書きのよさを振り返り、毎日の生活の中で感動したことなどを想起したりする。	理科「水のすがた」 ●温度や状態の変化を調べる。	算数「箱の形の体積を調べよう」 ●立体図形や直方体における面積や平面の関係について理解し、説明することができる。	社会「国際交流がさかん」 ●自分の地域の様子や特色等を紹介する。
	国語「お礼の気持ちを伝えよう」 ●相手や書の内容を選んで伝える。	社会「健康なくらしとまじり」 ●人々の健康と生活環境を文脈から、関連付けながら調べる。	社会「水はどこから」 ●水の供給や使われ方について、自分たちができることを話し合い、学習問題について自分の考えをまとめて考える。	算数「考える力をのばそうーちがいに注目してー」 ●問題の構造について、分配や移動を伴う二つの数量の差に着目して、割合に表して考える。	社会「ごみはどこと」 ●ごみの処理について、自分たちができることを話し合い、学習問題について自分の考えをまとめて考える。	音楽「歌声のひびきを感じ取ろう」 ●歌詞の表す様子を思い浮かべながら、のびやかな声で歌う。	理科「あたたく探した動物を育てよう」 ●身近な動物を育てたり、しなから、環境等との関わりを調べる。	社会「健康なくらしとまじり」 ●人々の健康と生活環境を文脈から、関連付けながら調べる。	国語「水はどのくらい」 ●水の量や状態を調べる。	国語「感動を言葉に」 ●これまで書いた詩を振り返り、書きのよさを振り返り、毎日の生活の中で感動したことなどを想起したりする。	理科「水のすがた」 ●温度や状態の変化を調べる。	算数「箱の形の体積を調べよう」 ●立体図形や直方体における面積や平面の関係について理解し、説明することができる。	社会「国際交流がさかん」 ●自分の地域の様子や特色等を紹介する。
特別の教科道徳	「ドッジボール」 ●判断、自信、自由と責任	「ひびきが入った水そう」 ●正直、勇敢	「しんじき」 ●文化の尊重、国際理解	「一匹のセミ」 ●感動、勇敢	「全校足とカワセミ」 ●判断、自信、自由と責任	「リズムダンス」 ●リズムに乗って踊ったり、友達と関わり合ったりして即興的に踊る。	理科「すずし」 ●動物の活動は、睡りや寝る、寒い季節、寒い季節に合わせた行動があること等について調べる。	国語「自分だけの詩集を作ろう」 ●テーマを決めて詩を集め、自分だけの詩集を作る。	図工「かわいらしい動物の絵」 ●動物の姿や表情を思い浮かべ、色や線を使って表現する。	図工「カードで伝える気持ち」 ●飛び出す仕組を基に、伝えたいことをカードに記入する。	図工「水のすがた」 ●大きな絵（表情、信頼）	図工「世界の小学」 ●国際理解、国際親善	国語「水のすがた」 ●温度や状態の変化を調べる。
総合的な学習の時間	●パソコンの操作、文書作成ソフトを使った新聞作り、データ保存の仕方 ●「表現について学ぼう」 ●「聴覚に障害のある方と共いいきる」 ●「二分の一 成人式をしよう」												
特別活動	●児童会活動：朝の会、代表委員会、委員会活動、集会活動、たてわり班活動等 ●クラブ活動：イラスト、手芸、裁縫、写真・パソコン、科学、器楽合奏等 ●学校行事：儀式的行事、文化的行事、遠足・集団宿泊的行事等												
その他	保護者会等 個人面談等 保護者会等												
自尊感情や自己肯定感を高めるための留意点	●「学習内容」で高める ・各教科等の学習内容と関連させながら、自尊感情・自己肯定感を高める。												
自尊感情や自己肯定感を高めるための留意点	●「指導方法」で高める ・学習方法や学習形態、教材・教具等を工夫しながら、自尊感情・自己肯定感を高める。												